

平成30年度第1回社会教育委員会議 会議録

日 時 平成30年7月5日(木)

15:00～16:10

場 所 本庁舎2階21会議室

出席委員 山口委員（議長）、小林委員（副議長）、岩井委員、大澤委員、大橋委員、北岸委員、佐藤(明)委員、佐藤(天)委員、藤島委員、渡辺委員（10名）

事務局 教育委員会：和野教育長、瀬能教育部長、山口教育部次長

生涯学習課：白川課長、藤原主幹、斉藤主査、田中主査、久保主任主事、仲世古主事

-
- 1 開会 (進行) 生涯学習課長
 - 2 委嘱状の交付
教育長から各委員に委嘱状交付
 - 3 教育長挨拶
 - 4 委員自己紹介
 - 5 議長・副議長の選出
議長に山口孝昭委員、副議長に小林守委員を選出
 - 6 議長・副議長挨拶
 - 7 諮問
第四次苫小牧市子どもの読書活動推進計画策定に係る諮問
 - 8 議事
(1) 第四次苫小牧市子どもの読書活動推進計画策定について
資料に基づき、事務局から説明

《質疑の主な内容》

議 長：ご質問、ご意見ございますか。

委 員：資料2と資料4の項目は同じものですか。

事務局：はい。資料2をもとにしており、資料4は隣に委員評価を書き添えていただいているようになっています。

委員：A、B、Cの評価ですね。(資料4の)社会教育委員評価でNo1～8はまとめて8項目について、「継続」、「さらに強化」、「やや弱化」のどれかの評価でよいですか。以下も同じですね。

事務局：はい。そうです。

委員：それで何かコメントがあればここに書く。13日まで。

議長：よろしいですか。その他、委員の方いかがですか。

委員：(資料2の)評価の基準ですね。A～Eまであって、Cの「計画以前と同様」の意味がわからないので教えていただけますか。

事務局：第1次から第3次まで続いている計画で、第3次は平成26年度から今年度までの計画として行っておりまして、より現在で取り組んでいるか取り組めていないかという基準になろうかと思えます。

委員：それだとB(まあまあ取り組めた)とかD(あまり取り組めなかった)と変わらないような。わざわざCの評価は必要になるのだろうか。

事務局：こちらの評価はそれぞれの担当課が評価しているのですが、Cの評価につきましては、第2次計画を踏まえて第3次計画を策定しているのですが、第2次計画の時とあまり状況が変わっていないという評価。3次計画を作って、その取組を進めていけばAやBの自己評価をつけると思うのですが、そこまでの取組が出来ていなかったという判断なのかなと思います。

委員：要は変わらなかったと。

事務局：そうです。

議長：よろしいですか。つまりは社会の情勢は変わっているのだけれども、基本的な考え方は以前と同様でいいですよというのか。メディアの発展もあるし、子どもの読書離れという傾向があるというのをどういう風にとらえようかということを事務局が発信しているのではないかと思うのですよね。よろしいですか。これから我々、進めていく上で基本的なことだけは確認するという

ことが大切だと思うので、確認というのが今後子どもの読書活動推進計画というものをどういう柱を立てて、苫小牧市に今後やっていただくかという意見を答申しなければならない訳ですから、その手前で皆さんに苫小牧市のこれまで読書活動推進計画の見直しをして、継続すべきものは継続、新しいものを取り入れてこういう柱を立てませんかというご意見を賜りたいのではないかなという事務局の考えかと私は思いますけれども、事務局よろしいですか。他にご意見ございますか。

委員：検証ってすごく責任が重いなと思います。資料3の設問の小学生・中学生それぞれの回答というのは1次、2次とずっと変わらずに来ているもの。例えば、高学年になるほど読書離れ、中学生になると読まない理由は時間がないとかになる。4次となった場合、その柱というのは何なんだろうと思うのですけど。調べ物も先生に聞く前にインターネットで調べてしまっているという実態も特徴的だったなと思います。色々なところが読書環境を取り巻こうとしているのですが、その実態として、1次、2次、3次の中で何が一番メインで、何が問題点で、それが4次にどう反映させていくかという流れがわからないものですから、例えば、学校図書館司書が増えたから子どもの読書環境が良くなったよとか具体例があれば示してもらいたい。

事務局：こちらの計画ですが、国の定めた法律に基づいて国が計画をたて、それに基づいて道が計画を作り、それらを踏まえて市が計画を作って進めてきたのですが。例えば、学校司書でいいますと、アンケート5ページに問5の1「休み時間に学校図書館に行きますか」では、「よくいく」、「ときどき行く」の回答が前回調査に比べると約10%増えています。学校司書については、平成27年度から小学校への配置が始まったところであり、図書室に人がいるという状況がアンケート結果に反映されているのではないかと、小学校については、子どもを取り巻く環境の中に読書というのが広まっていることがうかがえます。

委員：すごくわかりますが、国が示した指針はあるかもしれませんが、苫小牧市の特徴というか、苫小牧市は具体的にどう分析してどう反映していったらよいのかなということがわからないのです。あと、電子書籍があまり活用されていないというのがありましたけれども、幼児の段階からタブレットに触れていますよね。もっと読書環境ということで電子書籍もその範囲とすることも大事なのかなと思います。ある程度高学年になると、読書の好きな子と全然読まない子に分極してしまう気がして、それがこの結果の読書の低下に繋がるのではないかと。どのような柱にするのかわからないもので。

議長：本日の会議は第1回目ですので、事務局からの報告をインプットしてもらっ

て、我々がこれからどういう柱をたてるのかという会議がこれから始まる訳ですから。

委員：では、先ほど話しがあったのは3次の総括ということですね。

議長：3次の問題点をもう一度考えてくださいと。考えた上で、足りなかったものを継続するのか、足りないものを柱として何かがあるのかという審議をこれから進めていくということかなと。

委員：13日まで返事ということに困惑しております。わかりました。

事務局：議長がご説明しましたように、期間のない中での評価というところが大変申し訳ないと思うところがございますが、3次計画を皆さんに検証していただいて、それを元に4次に向けた計画を策定していきたい。今後、あと何回か委員さんにお集まりいただく中で、第4次の柱を何にするかというところを議論していきたい。先ほどの電子書籍についても、委員の中でそのような思いがあるのであれば、今回の評価でコメントしていただいて、そこから第4次に向けた計画を作っていきたいと考えております。1次からどういうことが行われてきたのかということについては、やはり幼児期にどのように読書していくのかということ、この間ずっと力を入れてきたところ、定着はしてきたかなという思いもあるのですが、先ほど言われたとおり学年が上になるにつれて読書離れというアンケート結果になっておりますので、その辺も検証して行って今後の計画につなげたいと考えておりますのでご理解願います。

議長：対象は0歳から18歳ということなので、社会教育の一部分だと思いますが、この間に読書習慣を身に付けさせるにはどのようにしたらよいのかなというご意見を賜りたいのだと思うのですよね。確かに幼少期に読書習慣を身に付けさせれば、人間の生き方というのはある程度固まりますよね。中学高校になるとメディアの発達もあって、そちらに飛びたがりますが、活字を読むということの大切さをいかに幼少期に教えるかというのが最大のポイントかなという気が私はしていますけれども。そのほかご意見ございますか。

委員：アンケート調査の取り方なのですが、対象を2、4、6年生にすると、2年生はコンピュータ学習はまだなので、電子書籍を読んだことありますかという問いに合致するのか。それと、よその市では1年から4年まで対象はバラバラにアンケートをとっているのですよね。この学年を選んだ根拠を教えてください。

事務局：小学校2年生については、意味を2年生が理解できるかという声があり、アンケートを行う際には、低学年の子には教室で先生が1問1問読んでいただいて、アンケートに答えていただく形をとっています。2、4、6年生を選んだ理由は、2次計画で始めてアンケートを行っていますが、その2次計画の時に対象としたのが、2、4、6年生となっており、それに合わせた形でアンケートをさせていただきました。

委員：2次計画の時にどうして対象としたかというのはわかりません。あと、電子図書の質問が2年生も対象としているというところがわかりませんが。

事務局：2次計画については、電子図書は中学生のみを対象としていました。時代がたちまして、子どもたちにもタブレットが広がっている現状がありまして、小学2年生はどの程度触ったことがあるかということも気になったので聞かせていただきました。

委員：学年一緒にしていますが、それを分解している数字というのは出ているのですか。

事務局：あります。皆さんにお配りしておりませんが、小学校で「よく読む」は2年生が11.7%、4年生が10%、6年生が12.2%。「たまに読む」は2年生が14.6%、4年生が14.8%、6年生が16.3%。ちなみにこれが中学校3年生になりますと、「よく読む」は16.6%、「たまに読む」は28.1%。逆に読まないと答えた率ですが、小学校2年生が63.3%、4年生が65.1%、6年生が57.2%、中学校1年生が50.6%、中学校2年生が47.2%、中学校3年生が38.5%と徐々に下がっている傾向がありました。

委員：文科省でアイパッドを受け入れなさいという話になっていますよね。現状をpushしておけば、今後役に立つかなと聞きました。

議長：他にありますか。

委員：資料4の8番「子どものための選定図書」ということで、図書館でポスターを作って配布していますよとありますが、年間で何冊くらいの本を紹介していますか。

事務局：苫小牧の先生方が選定している図書としては小中学校併せて50冊くらい。そのほかに北海道であったり、別に選定しているので、全体を合わせますともっと大きい数になっています。

議 長：市だけではなくて、道だとか国立図書館とかからも選定されているのですね。

事務局：苫小牧市のほかに、北海道の指定図書、読書感想文などで選ばれた図書、青少年のための図書というように様々な団体から選ばれています。

委 員：それは、どのように市民に周知しているのですか。

事務局：PRについては、市の選定図書は新聞記事に載せたり、図書館や図書コーナーでのPRとなっています。

委 員：図書館に行かないとわからないということですよ。先ほどのアンケートでも本が好きなのは面白い本に出会ったから、読まない人の理由は読みたい本がないからとなっていますよね。面白い本があるということをアピールしていけば、この数字は上がっていくかなと思うのですね。

議 長：確かに広報の仕方は検討していく必要があるのかなと思いますね。マスメディアを使うのもそうだし、ホームページで発信するやり方もあるでしょうし。その辺を第4次の柱に立てて進んでいくかどうかというところですね。他にございますか。

委 員：大したことではないのですが、理解できないので。資料2の22番目「読み聞かせ活動の推進」については小学校の先生が行っているのですか。

事務局：国語の教科のほかに、PTAやボランティアなど、取組は様々とお伺いしています。

委 員：保護者やボランティアも入っているのですか。ただ幼稚園、保育園はできていないC、D評価と、小学校ではA評価と随分評価が分かりますね。

事務局：幼稚園、保育園に関しましては、保護者などに頼むというのが、共働きなどで読み聞かせまで来ていただけないという声が多かったりして低めの評価となっているのかなと思うのですが。小学校に関しましては、先生方も取り組んでいらっしゃることもあってA評価なのかと思います。

委 員：学校の先生だけが担当しているのではないと。ありがとうございます。

議 長：今のは大きな柱の中の、地域における子どもの読書活動を啓発する1つの手段として、読み聞かせなどをされていて、さらに民間団体の活動の支援も得て

いますよということで苫小牧市はこれまで行ってきたのだと思います。他にございますか。

委員：今の一番の力になるのはボランティアだと思うのですが、資料4にはどういう立場かわからないボランティアがある。図書だけではないのですが、何人くらいいてどのようなことをしているというのを取りまとめれば、もっとボランティアが続いていくのではないかと思います。頼まれたからという口伝ではなく、その人を認めるということにもつながるので、ここではちょっと違うかもしれませんが、やったほうがいいのかないかなと思いました。

議長：バラバラではいけないから、どこかが窓口になって集約したらいかがというご意見かな。

委員：そうです。これに限らず。

事務局：本の修理をする団体であったり、図書館が関わっている読み聞かせの団体があります。こちらは図書館と連絡を密に取って、連携しながら行っている。場合によっては、それらの団体が小学校での読み聞かせ活動を行っていたりしています。そのほかに学校ごとにボランティアとして手伝ってくれている方がいます。図書館で行っているのは、ボランティアさんを集めて皆さんどのような活動をしていますかという会を年1回開催しています。

委員：主体となっている方から見たらわかるのだけど、ボランティアで参加しようと思っている人たちから見たら、どこのボランティアに行けばいいのかというのはわからないですね。市民ボランティアがわかりやすいようなものがあれば、参加しやすいと思います。

議長：参考意見ということで、検討していただくということでよいですか。

委員：今のボランティアの話って、ボランティア連絡協議会の話になってくるのかなと思います。連絡協議会を取りまとめるところと学校が連携してというのはわかるのですが、取りまとめはこちらの分野ではないような。

議長：協議会で検討していただくと。社会教育委員としてはこういう意見がありますよと発信するのもいいのではないですか。

委員：色々なボランティアがあるので、ボランティア連絡協議会でカバーできるかわからないですし、社会福祉協議会にボランティアはありますが、福祉だけではないので、窓口一つにして発信してもらうのがよいかなと思います。

事務局：今の話を参考にさせていただきたいと思いますし、図書館についてはある程度情報がわかっておりますが、市全域では押さえていない部分がありますので、ボランティア連絡協議会がそういった発信をしているのかなどを含めて、確認させていただきたいと思います。確認した中で、我々と連携できるのかなども含めて考えさせていただきたいと思いますのでお時間いただければ。

委員：次の委員会でいいですが、2次から3次にこういう風に変化したという概要がわかる資料があると参考にして意見が言えるかと思います。

事務局：確認してできるだけ早めにお渡しできるようにいたします。

議長：他にありませんか。それでは、本日の議事はこれで終了いたします。

9 その他

事務局より、委員評価の締め切りについて17日(火)までとすることで修正。

10 閉会